

第5回 | 獣がいフォーラム 獣がい対策の新展開

~高齢化・過疎化にどう立ち向かうか~

後編

取材協力・資料提供 NPO 法人 里地里山問題研究所(さともん) 取材・文

農産物を狙う野生鳥獣が圃場へ侵入することを防げれば、理論上、被害をゼロにすることができるはず。しかし、圃場を囲う防護柵は風雨に曝されるうちに破損し、開いたすき間から野生動物が侵入。農作物は食い荒らされてしまう。定期的に防護柵の点検などをする人員が求められるも、都会以上に少子高齢化が進む中山間地域で獣害対策の担い手を確保することは簡単なことではない。そこで地域外に住み、農業以外の職業に就いていない人達にも獣害対策に関わってもらうため、「関係人口」を増やしていくことが求められるようになっていく。兵庫県丹波篠山市では獣害対策の「害」の漢字をあえて平仮名の「がい」で表記し、様々な属性の人々が参加できるようにしているという。そして2023年2月5日、同市で「第5回獣がいフォーラム 獣がい対策の新展開～高齢化・過疎化にどう立ち向かうか～」が開催され、関係人口を増やすための様々な取り組みが紹介された。フォーラムではいかなる取り組みが紹介されたのか。その後編をお届けする。

企業と獣がい対策

ネットヨタ神戸(株) 取締役

さん

獣害対策の担い手の減少が懸念されている以上、実際に対策に携わる人が増えることが求められる。その点でネットヨタ神戸(株)の取り組みは注目に値する。同社取締役の

さんがこう説明してくれた。

「地域が活性化してこそ当社が当社としての営業を続けられる」という社長の考えの下、弊社は地域に根差したお店作りに取り組んでいます。丹波篠山にはネットテラス篠山という店舗がある関係で、当地のお困りごとの解決に貢献したいという思いがあり、さともん(詳細は後述)の様

様に相談させていただいたところ、獣害の実態を教えてくださいました。何かお手伝いさせていただけくことはないかと考え、2022年には防護柵の点検や草刈りなどの作業に関わらせていただきました(図1)。

また獣害対策のお手伝いをしていると言えるところまでできており、体験させてもらっているという程度ですが、今後も関わらせていただきたいと思えます。この活動がSDGsの達成につながるのではありませんかと考えています」



図1 ネットヨタ神戸(株)の取り組み

ネットヨタ神戸(株)の皆さんは、丹波篠山の課題を知り、防護柵の管理(右)や草刈り作業(左)に参加している。

多くの企業がSDGsの達成を目指す活動に取り組んでいるだけに、獣害問題が広く知られるようになれば、ネットヨタ神戸(株)のように獣害対策に参加する企業が現れることが期待される。

おいしく食べて獣害対策！ 放任柿の早期収穫とその利用

県立篠山東雲高等学校地域農業科

さん

丹波篠山の獣害対策には地元の篠山東雲高等学校に通う生徒も参加しており、同校地域農業科のさんが登壇。獣害対策に関わった経緯と活動内容を紹介してくれた。

「丹波篠山市の『獣がい対策実践塾』(詳細は後述)に参加して、農業を行う上で獣害が大きな問題になっているのを知りました。実践塾ではサルなどの払いや、防護柵の点検などの皆さんの対策を学んできました。が、とくに私が注目したのは放置されたカキを早期収穫して、ジャムに加工するという活動でした。おいしいカキが成りつばなしだと、お腹を

空かせたサルが山から降りてきて、農作物にも悪さをします。サルが山から降りてこないようにするため、カキを放置せず、早めに収穫することが対策として有効なのです。しかし、一度に大量に収穫されたカキをジャムにするだけでは消費が間に合いません。そこで私は学校で学んだ食品加工の技術を生かし、カキを使った加工食品を開発。それが後に丹波篠山市のふるさと納税の返礼品に

採用されました」

さんの姉も獣害対策に関わっており、2021年度に柿ジャムを使ったケーキを考案。地元の洋菓子店の協力を得て商品化できたものの、期間限定販売に留まった。そのため

さんは、ジャムやドライフルーツなどの長期保存が可能な食品を開発する必要があると考えた。

実際にジャムなどの加工品を開発、製造して、市内のイベントで販売し

図3 ふるさと納税の返礼品に決まった柿ジャム

ふるさと納税の返礼品丹波篠山の名産品の黒豆、柿のジャムとセットで丹波篠山のジャムが寄付した人に贈られることになった。



たところ、獣害対策で収穫されたカキを使った加工品であることが事前に新聞で報じられていたこともあり、カキの加工品は完売した(図2)。

さんは獣害に対する市民の関心の高さ、柿加工品の価値を認識し、柿ジャムを丹波篠山市のふるさと納税の返礼品に申請することにした。

無事に審査を通過し、2023年度から名産の黒豆ジャム、丹波栗ジャムとのセットでふるさと納税をしてくれた人に送られることになった(図3)。

さんは「応援商品を製造、販売することで、獣害対策を応援してくれる方と丹波篠山の農家をつなぐ歯車になりたいと考えています」と話してくれた。

多様な人材参画で 進める獣がい対策、応援消費

NPO法人里地里山問題研究所

(さともん) 代表理事

さん

獣害とは縁遠いはずの人達が関わっていることから、丹波篠山では関係人口を増やすことに成功しつつ